



三菱マテリアル株式会社

2025年3月期決算説明会

2025年5月14日

## 2025年3月期 質疑応答議事録

---

**質問者 [Q]**：ヘッジ停止による評価損益の動向は上期△34億円が営業利益、営業外収益の合計だが、下期、通期の数字を教えてください。

**平野 [A]**：ヘッジ停止影響は上期、営業利益段階で△15億円、営業外損益で△19億円、経常利益段階で△34億円。同様に下期について、営業利益は+1億円、営業外損益は+4億円、経常利益段階で+5億円。通期実績としては、営業利益△14億円、営業外損益△15億円、経常利益段階で△29億円となっている。

**質問者 [Q]**：通期実績の金属事業と銅加工事業の内訳を教えてください。

**平野 [A]**：金属事業は、営業利益+4億円、営業外損益△15億円、経常利益段階で△11億円。銅加工事業は、営業利益△18億円、営業外損益ゼロ。経常利益段階で△18億円となる。

**質問者 [Q]**：金属事業の2026年3月期の業績見通しの悪化度合いがとても大きいと感じる。13ページの為替差△156億円は為替の感応度以上の数値となっている。これは在庫評価の影響か。

**平野 [A]**：12ページの滝グラフ、為替差△181億円の内の原材料の在庫評価影響△112億円が在庫評価の影響である。為替が変動しなければ発生しないものである。2025年3月期第4四半期の銅精鉱の前払費用は、2026年3月期第1四半期には棚卸資産となる想定であり、この期間で13円/ドル変動（2025年3月期第4四半期の平均レートが153円/ドル、2026年3月期の予想は140円/ドル）する想定であり、在庫評価の影響額は△112億円となる。

**質問者 [Q]**：2025年3月期は減損も行われているが、銅加工事業の減損は三宝製作所のブスバーに関係するものが含まれているか。

**平野 [A]**：ブスバーに関係するものが含まれている。ただし、金額はそこまで大きくない。主に若松製作所で減損損失を計上した。

**質問者 [Q]**：営業キャッシュフロー計画が1,420億円となっており、前年度から900億円程度増加している。営業利益が大きく減少しているなかで、在庫削減やワーキングキャピタル削減の話もあったが、営業キャッシュフロー計画の達成確度を教えてほしい。

**平野 [A]**：2025年3月期は153円/ドルが年間平均レートだったが、2026年3月期の為替前提は140円/ドルになるため、棚卸資産の金額が減少すると見込んでいる。つまり、原材料を購入する際のキャッシュアウトが減るため、200億円は確実に改善すると考えている。それ以外にも棚卸資産の圧縮については、全社プロジェクトとして加速度的に進めている。さらに、別途進めている事業改革効果などの積み上げによって大きく外すことはないと考えている。

**質問者 [Q]**：配当を据え置いた理由の中にキャピタルアロケーションの話もあったが、営業キャッシュフローが会社計画から下振れた場合、配当に関する考えはどうか。

**平野 [A]**：様々な角度から検討しなければならない。今日の時点では回答は控えさせてほしい。

**質問者 [Q]**：金属事業の2026年3月期の利益の考え方として、在庫評価がマイナスとなる意味は、円安時に調達した銅精鉱を原料に地金を生産し、販売時に円高になる場合、割高な在庫を販売することでマイナスの影響が出るということか。在庫評価益の△112と△4の数字がどのように求められるか確認をさせてほしい。

**平野 [A]**：在庫評価についてはその通りである。△112億円と△4億円は為替予約・銅価予約をしなかった場合の影響であり、△112億円は金属事業に発生する損失額であり、△4億円は銅加工事業に発生する損失額である。

**質問者 [Q]**：2026年3月期に持分法利益や受取配当金が増える理由を教えてほしい。

## 諸元

### 主要製品の生産・販売動向

項目	24年3月期								25年3月期								26年3月期
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期予想		
電気銅	生産量	千 t	96	109	204	95	113	208	413	112	102	214	98	85	183	398	417
	販売量	千 t	86	99	186	92	111	203	388	102	93	195	88	79	167	362	389
金	生産量	t	9	6	14	4	8	12	26	9	9	19	10	10	19	38	31
	販売量	t	8	6	14	4	8	12	26	9	9	19	10	10	19	38	31
銀	生産量	t	66	61	126	44	65	109	235	81	75	156	69	75	144	301	275
	販売量	t	65	61	126	39	71	110	236	82	74	156	69	76	145	302	275
伸銅品	販売量	千 t	29	31	61	32	31	63	124	29	29	58	31	29	60	117	135

### 鉱山配当額の推移

項目	24年3月期								25年3月期								26年3月期
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期予想		
Los Pelambres	配当額	億円	-	-	-	208	1	210	210	-	-	-	137	22	160	160	156
Escondida	配当額	億円	6	3	9	9	2	12	21	8	-	8	27	-	27	36	48
鉱山配当額計	配当額	億円	6	3	9	217	4	222	231	8	-	8	164	22	187	196	204

### 金属価格・為替の推移

項目	24年3月期								25年3月期								26年3月期
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期予想		
ドル為替レート	円/\$	137	145	141	148	149	148	145	156	149	153	152	153	153	153	140	
ユーロ為替レート	円/€	149	157	153	159	161	160	157	168	164	166	163	161	162	163	160	
銅価格(LME)	¢/lb	385	379	382	371	383	377	379	442	417	430	416	424	420	425	425	
金価格	\$/oz	1,978	1,929	1,954	1,976	2,072	2,024	1,989	2,338	2,476	2,407	2,662	2,862	2,762	2,585	2,700	
パラジウム価格	\$/oz	1,449	1,251	1,350	1,085	978	1,031	1,191	972	970	971	1,011	961	986	979	1,000	

## 持分法投資損益内訳

(単位：億円)

会社名	当社 持分	24年3月期							25年3月期							26年3月期
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期予想
Copper Mountain Mine(BC)Ltd.	25%	△4	△17	△22	5	△5	0	△22	0	△6	△6	0	△5	△5	△11	△5
Mantoverde S.A.	30%	△12	2	△10	△2	△10	△13	△23	△2	△4	△6	6	5	12	5	49
PT.Smelting *1	34%	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	2	3	6	11	15
関西リサイクルシステムズ	41.4%	1	1	2	1	1	2	5	1	1	3	1	1	2	5	5
フジクラダイヤケーブル *2	22%	2	1	4	2	2	5	9	3	0	4	3	3	7	11	8
湯沢地熱	30%	0	0	0	2	1	4	4	3	△0	3	2	1	3	7	3
UBE三菱セメント	50%	20	47	67	29	41	70	138	36	36	72	43	25	68	140	132
その他		1	1	2	1	△2	△0	2	2	△0	1	1	3	6	7	6
合計		7	37	45	41	28	70	115	45	31	76	63	36	99	175	213

\*1:第三者割当増資の完了に伴って持分比率が低下したため、25年3月期第2四半期より持分法適用関連会社として損益取り込み  
\*2:24年3月期当社持分22.5%、25年3月期当社持分22%

28

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

**平野 [A]**：銅精鉱のビジネスは、鉱山側と製錬側で利益を分け合う構図となっている。現在は、製錬側のマージンである TC/RC が低下しているため、当社の収益は悪くなる一方で、鉱山側の収益が良くなる見込みである。そのため、27 ページ中段に記載の通り、ロスペランブレスとエスコンデーダの配当額が増える予想になっている。28 ページの持分法投資損益の内訳では、マントベルデなどの稼働を開始した鉱山について、鉱山側の利益は増えたが、当社持分の 30%の利益は持分法投資利益として取り込んでいる。

**質問者 [Q]**：金属事業の持分法投資損益、銅鉱山からの受取配当金について、銅価前提は 2025 年 3 月期と同様であり、変動影響はない。一方で為替の円高はマイナスの影響があるが、TC/RC 低下による鉱山側のマージン増によるプラス影響やマントベルデ等の操業効果もありプラスになるイメージか。

**平野 [A]**：その通り。

**質問者 [Q]**：2026 年 3 月期の計画で、銅加工事業と加工事業については数量効果による増益を見込んでいる説明があったが、自動車などの需要がそこまで強く増える想定でないと思う。どのような前提を考えているか教えてほしい。

**田中 [A]**：自動車に関しては、国内は一定程度回復すると見ている。その部分での数量差増を織り込んでいる。銅加工事業は、AI サーバー関連の需要として、例えばヒートスプレッタなどの拡販を見込んでいる。加工事業は、自動車だけではなくて航空機・宇宙や医療分野への拡販を見込んでいる。

足元の回復の手応えについて、自動車はグローバルでは上向いている感じはない。国内自動車メーカーは好調・不調がまだら模様になっており、順調に右肩上がりに回復する想定ではない。一方、加工事業では、航空機分野はコロナ禍で需要が減ったが、その後は順調に右肩上がりになっており、その傾向は続いている。

**質問者 [Q]**：銅価格前提は横ばい、為替は円高に見ているが、金属事業の価格差のプラスは主に副産物関連という理解でよいか。

**平野 [A]**：その通り。硫酸手取りの価格の改善影響がでているものである。

**質問者 [Q]**：コスト削減の取り組みについて、田中社長の新経営体制のもとで新たに加速する余地があるか説明してほしい。

**田中 [A]**：中経 Phase 1 の今年度の着地見込みが大きく目標未達になっているため、何をやっていくかはまだ検討中である。大小さまざまなテーマに取り組んでいく。今後の説明会で逐次発表させてほしい。

**質問者 [Q]**：高機能製品の 2026 年度 3 月期予想と 2025 年度 3 月期実績の差異要因の価格差マイナスはどのように理解すればよいか。

**平野 [A]**：銅加工事業について、ヘッジを 2025 年度 3 月期に停止した影響などが出ている。

**質問者 [Q]**：6 ページの関税影響を織り込んでいないことについて、背景を教えてください。

**田中 [A]**：米国の関税の影響について、金属事業に関しては、電気銅を米国に直接輸出しているケースはほとんどないため、影響はほとんど出ないと見ている。電子材料事業や加工事業については、一部の製品で直接輸出しているものは関税が発生するが金額影響までは見通せない。間接的に米国に輸出されるケースもあるが、具体的な割合などは不透明な状況があるため織り込んでいない。仮に関税が適用された場合、銅加工事業や電子材料事業、加工事業ではネガティブサイドに影響が出る。

**質問者 [Q]**：17 ページの配当予想について、今期は厳しい業績ながらも前期並みの配当を払うという計画である。こういった背景で一株当たりの配当額が 100 円になったか教えてほしい。

**平野 [A]**：財務健全性については資料の中央に記載のとおり、中経 Phase 1 ではネット D/E レシオは 3 年間 0.7 を維持しながら成長投資する計画を持っていた。期中に上がったこともあったが期末には 0.7 に抑え、今期についてもネット D/E レシオ 0.7 を確保できるめどが付いた。また、営業キャッシュフローから適切な範囲内の比率分は、投資に使う余地があれば使うが、使わないキャッシュは株主還元に戻すべきだと考えた。配当性向 30%を超えることは十分承知の上ではあるが、3 年間のキャピタルアロケーションからの判断である。

以上